

真先稲荷の狐

真先稲荷の「お出いで狐ぎつね」（43頁）は、境内に棲すんでいた狐たちに参拝客が油揚を与え、食べてくれれば願いがかなうとされて賑わったことに由来する。江戸の地誌『武ぶ江こう年ねん表びょう 正編』（斎さい藤とう月げつ岑しん、嘉永3年〈1850〉）にも「茶店の婆油揚をもちておいでおいでと呼ぶ時、狐出て食ふ。」と記されている。



（歩いて学ぼう南千住検定より）